

2025年3月期 決算説明会資料

2025年3月期決算
& 2026年3月期業績予想

東証プライム：5991
日本発条株式会社
2025年5月28日



25.3期 連結決算 26.3期 通期業績予想

専務執行役員
CFO

池尻 修

それでは、2025年3月期の連結決算並びに、2026年3月期の
通期業績予想について、ご説明致します。

25.3期 連結決算

まず、2025年3月期の連結決算です。

25.3期 連結決算

自動車関連市場：国内外において、前年同期比で生産台数が減少

情報通信関連市場：HDDの世界生産台数は前年同期比で増加をし、当社の主力製品であるHDDサスペンションの総需要も増加

(億円)

	24.3期 実績	25.3期		対前期 増減	25.3実績対2月時点予想	
		2月時点予想	実績		増減	比率
売上高	7,669	8,000	8,016	347	16	0.2%
営業利益	346	500	521	175	21	4.1%
営業利益率	4.5%	6.3%	6.5%	2.0%	0.3%	-
経常利益	478	550	579	101	29	5.1%
経常利益率	6.2%	6.9%	7.2%	1.0%	0.4%	-
親会社株主に帰属する当期純利益	391	450	481	89	31	6.6%
特別損益	90	24	16	△73	△7	-
1株当たり当期純利益 (EPS) (単位:円)	173.27	-	224.73	51.46	-	-
自己資本利益率 (ROE)	10.4%	-	11.9%	1.5%	-	-
平均為替レート	US \$	144.4	152.2	8.1	0.3	-
	タイバーツ	4.0	4.3	0.3	0.0	-
期末為替レート	US \$	151.4	150.0	△1.9	△0.5	-
	(当期)	133.5	151.4	17.9	0.0	-
	(前期)	4.1	4.6	0.5	0.0	-
	タイバーツ	3.8	4.1	0.3	0.0	-
	(前期)					-

2025年3月期は、売上高8,016億円、営業利益521億円、
経常利益579億円、親会社株主に帰属する当期純利益は481億円、
営業利益を含め、各段階利益が過去最高を更新する実績となっております。

前年同期並びに第3四半期の予想に対して、いずれも増収増益となっております。

市場環境についてご説明致します。自動車関連市場は、国内外の生産台数は減少しております。

一方、HDDの世界生産台数の増加に伴い、当社製品であるHDD用サスペンションも、データセンター向けの需要が拡大しております。

また、半導体プロセス部品は、半導体市場の回復により、需要が拡大しております。為替レートにつきましては、ご覧の通りとなっております。

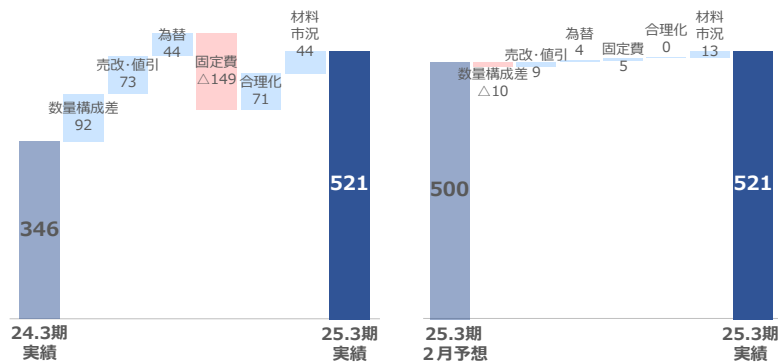
営業利益の変動要因分析

	24.3期 実績	25.3期		対前期 増減	対2月予想 増減
		2月時点予想	実績		
売上高	7,669	8,000	8,016	347	16
営業利益	346	500	521	175	21
営業利益率	4.5%	6.3%	6.5%	2.0%	0.3%

営業利益の変動要因分析

(対前期増減)

(対2月予想増減)



▽対前期実績

売上の増加のうち、約6割は円安による在外子会社の円換算影響であり、為替変動の影響を大きく受けた。

損益面では、前期低調だったHDD関連部品の数量回復と円安による利益押し上げ等が寄与し、増収増益となった。

▽対2月時点予想

概ね予想どおりの売上高で推移。

営業利益は、懸架ばね及びシート事業の売価改善・材料市況回収等もあって若干の上振れとなった。

次に、営業利益の変動要因について、ご説明致します。

対前年比の増収347億円のうち、約6割の217億円は、海外拠点の為替影響によるものです。

営業損益は、175億円の増益となっております。

変動要因のうち、固定費の149億円減は、インフレ及び人件費高騰等によるものです。

売価改善/値引きの73億円増は、懸架ばね事業、シート事業で、売価改善や合理化等による収益改善によるものです。

営業外損益

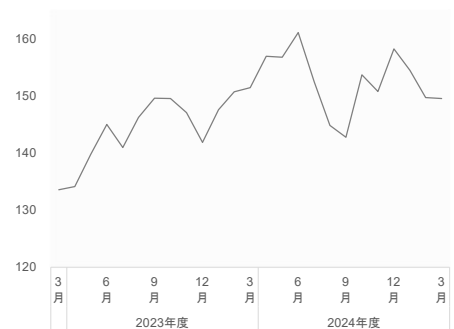
営業外損益 主な内訳

		(億円)		
科目		24.3期 実績	25.3期 実績	対前年同期 増減
営業外損益	為替差損益（日本）	57	△ 8	△ 65
	為替差損益（アジア・米欧ほか）	8	△ 2	△ 10
	受取配当金	28	31	3
	持分法投資損益	18	23	5
	その他	20	13	△ 6
	計	131	57	△ 73

▽為替差損益

前年度は期首→期末にかけてドル高変動となり為替差益を計上したものの、当期は期中変動こそ激しかったものの期首期末変動は小さく収まり、若干の為替差損を計上した。

▽ドル円 為替変動



続いて、営業外損益です。

2025年3月期は期首期末での為替レートに大きな変動がなかったため、10億円程度の為替差損を計上しております。

特別損益

特別損益 主な内訳

		(億円)		
科目		24.3期 実績	25.3期 実績	対前年同期 増減
特別利益	有価証券売却益	163	3	△ 160
	受取和解金	—	20	20
	計	163	23	△ 140
特別損失	固定資産減損損失	70	4	66
	その他	3	2	0
	計	73	7	66

(参考) 固定資産減損損失 内訳

			(億円)		
用途	拠点	対象	24.3期 実績	25.3期 実績	対前年同期 増減
生産設備	中国子会社	建物、機械装置 ほか	44	-	44
	ハンガリー子会社	機械装置 ほか	19	3	16
	アメリカ子会社	建物、機械装置 ほか	5	-	5
	当社 産業機器ほか事業	建物、機械装置 ほか	1	-	1
遊休不動産	国内子会社	土地	-	1	△1
計			70	4	66

▽特別利益

受取和解金の計上があったものの、前期に対して投資有価証券売却益が減少した。

▽特別損失

前期に対して固定資産減損損失が減少した。

次に、特別損益です。

2025年3月期においては、サンコール様との受取和解金の計上がありました。

その他、大きな変動要素はございません。

25.3期 連結決算

事業セグメント別の売上高・営業利益の状況



		(億円)			
		24.3期 実績	25.3期 2月時点予想	25.3期 実績	対前期 増減
■懸架ばね	売上高	1,711	1,700	1,691	△20
	営業利益	15	0	4	△11
	営業利益率	0.9%	0.0%	0.3%	△0.7%
■シート	売上高	3,241	3,020	3,039	△202
	営業利益	191	100	112	△78
	営業利益率	5.9%	3.3%	3.7%	△2.2%
■精密部品	売上高	945	1,020	1,019	74
	営業利益	6	45	42	36
	営業利益率	0.7%	4.4%	4.2%	3.5%
■DDS	売上高	671	1,110	1,115	443
	営業利益	64	265	266	202
	営業利益率	9.6%	23.9%	23.9%	14.3%
■産業機器ほか	売上高	1,099	1,150	1,151	52
	営業利益	68	90	95	26
	営業利益率	6.2%	7.8%	8.3%	2.1%
合計	売上高	7,669	8,000	8,016	347
	営業利益	346	500	521	175
	営業利益率	4.5%	6.3%	6.5%	2.0%

▽対前年実績

前期に最高益を記録したシート事業は減収減益となったものの、当期はHDD関連部品が好調に推移し全体を牽引。円安による利益押し上げも寄与した。

▽対2月時点予想

DDSおよび産業機器ほか事業は概ね予想並みに推移。自動車関連事業は期末の価格交渉成果が追い風となり、想定を上回る営業利益を確保した。

続いて、事業セグメント別の売上・営業利益の概況でございます。

前年同期比では、非自動車関連事業であるDDS事業が、利益を大きく拡大しております。

第3四半期予想比では、自動車関連の懸架ばね事業、シート事業の売価改善、材料費用回収等により、計画値以上の営業利益となっております。

それでは、事業セグメント別に、詳しく見て参ります。

地域セグメント別の売上高・営業利益の状況

		(億円)		
		24.3期 実績	25.3期 実績	対前期 増減
●日本	売上高	4,377	4,574	197
	営業利益	299	399	100
	営業利益率	6.8%	8.7%	1.9%
●アジア	売上高	1,869	2,053	183
	営業利益	79	194	115
	営業利益率	4.2%	9.5%	5.3%
●米欧ほか	売上高	1,423	1,389	△33
	営業利益	△31	△72	△40
	営業利益率	△2.2%	△5.2%	△3.0%
合計	売上高	7,669	8,016	347
	営業利益	346	521	175
	営業利益率	4.5%	6.5%	2.0%

▽対前年実績

日本は 特にHDD関連部品の回復影響が大きく、前年同期に対し増収増益。円安による利益の押し上げや半導体プロセス部品の数量増、モーターコア事業の売上拡大等も寄与した。

アジアは タイ自動車市場の落ち込みはあったものの、HDD関連部品の数量回復により増収増益。

米欧ほかは 米国・欧州の懸架ばね事業の赤字幅は縮小したものの、メキシコ懸架ばね事業および米国シート事業の利益が落ち込んだ結果、赤字幅は拡大する結果となった。

地域別の売上・営業利益の概況でございます。

日本におきましては、自動車関連事業はやや低調であったものの、HDD関連事業の需要回復、半導体プロセス部品の数量増、モーターコアの売上拡大により、増収増益となっております。

アジア地域におきましては、タイの自動車市場の落ち込みがある一方、HDD関連事業の需要回復により、増収増益となっております。

米欧地域におきましては、北米と欧州の懸架ばね事業の損失幅が縮小しております。

一方で、メキシコの懸架ばね事業及びシート事業で、一過性の費用発生により、損失幅が拡大しております。

25.3期 連結決算

事業セグメント分析：懸架ばね

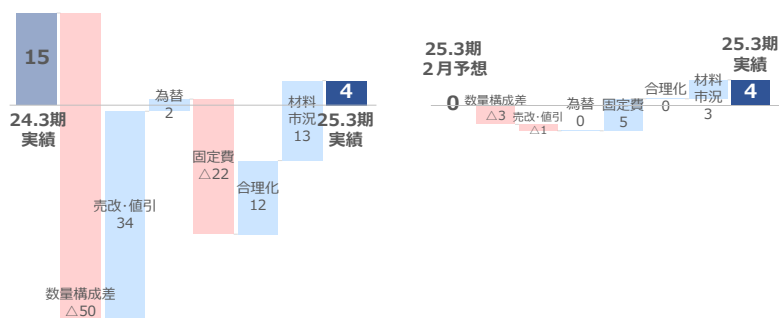
NHKニッパツ
NHK SPRING CO.,LTD.

	24.3期 実績	25.3期		対前期 増減	対2月予想 増減
		2月時点予想	実績		
売上高	1,711	1,700	1,691	△20	△8
営業利益	15	0	4	△11	4
営業利益率	0.9%	0.0%	0.3%	△0.7%	0.3%

営業利益の変動要因分析

(対前期増減)

(対2月予想増減)



▽対前期実績

米国拠点の売価改善や生産性の改善、中国拠点の固定費圧縮などは寄与したものの、タイにおける需要落ち込みとメキシコの新規品立上に伴う費用増等により減収減益となった。

▽対2月時点予想

数量減となったものの、日本・欧州における材料市況の回収や、米国拠点の固定費圧縮努力などが寄与し、減収ながらも増益を確保した。

懸架ばね事業となります。

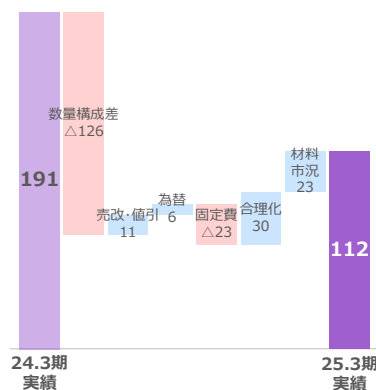
前年同期比では、北米と欧州での収支改善が進みましたが、タイ市場の台数減、メキシコでの費用発生により、減収減益となっております。

第3四半期予想比では、国内及び欧州での材料費の回収により、増益となっております。

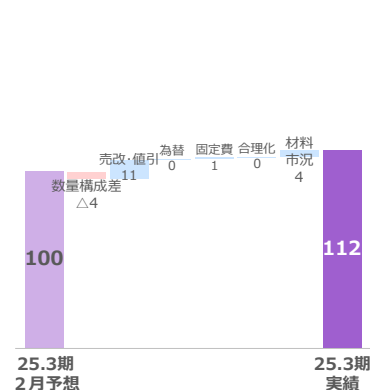
	24.3期 実績	25.3期		対前期 増減	対2月予想 増減
		2月時点予想	実績		
売上高	3,241	3,020	3,039	△202	19
営業利益	191	100	112	△78	12
営業利益率	5.9%	3.3%	3.7%	△2.2%	0.4%

営業利益の変動要因分析

(対前期増減)



(対2月予想増減)



▽対前期実績

市況回収や売価改善はあったものの、タイ・日本における台数減、北米の台数減および車種構成の悪化等により減収減益となった。

▽対2月時点予想

北米における台数減はあったものの、日本国内の売価改善や市況回収等により増収増益を確保した。

シート事業となります。

前年同期比では、国内、タイ、米欧の台数減に加えて、車種構成差の影響等により、減収減益となっております。

第3四半期予想比では、国内の売価改善及び材料費回収等により、増収増益となっております。

25.3期 連結決算

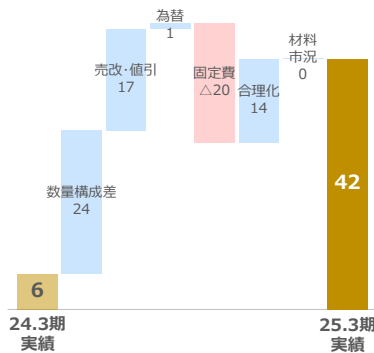
事業セグメント分析：精密部品

NHKニッパツ
NHK SPRING CO.,LTD.

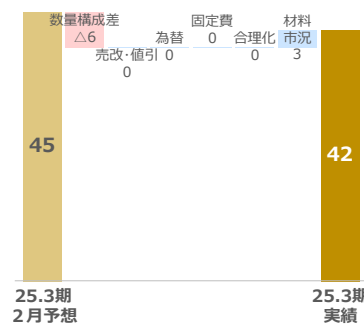
	24.3期 実績	25.3期		対前期 増減	対2月予想 増減
		2月時点予想	実績		
売上高	945	1,020	1,019	74	0
営業利益	6	45	42	36	△2
営業利益率	0.7%	4.4%	4.2%	3.5%	△0.2%

営業利益の変動要因分析

(対前期増減)



(対2月予想増減)



▽対前期実績

日本におけるモーターコア事業の売上拡大と生産性改善に加えて、HDD用機構部品の数量回復、円安による利益の押し上げ等が寄与し増収増益となった。

▽対2月時点予想

モーターコアが堅調に推移したほか、諸費用高騰影響の売価反映も寄与したがHDD用機構部品や北米自動車関連部品の数量が若干下振れした結果、減収減益となった。

精密部品事業となります。

前年同期比では、モーターコアの売上拡大、生産性改善、HDD用機構部品の数量回復により、増収増益となっております。

第3四半期予想比では、米欧の数量減により、僅かながら減益となっております。

25.3期 連結決算

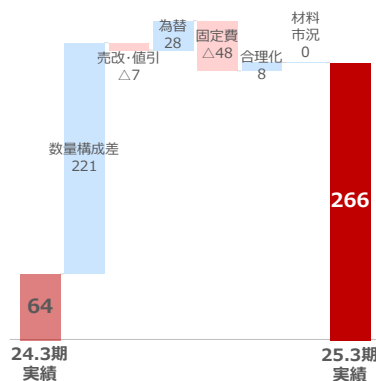
事業セグメント分析 : DDS (Disk Drive Suspension)

NHKニッパツ
NHK SPRING CO.,LTD.

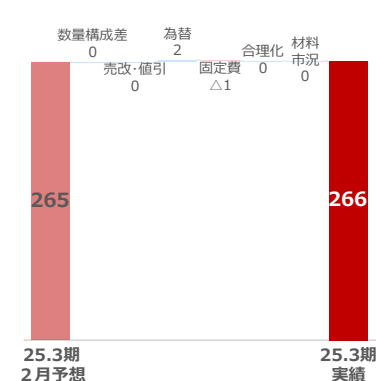
	24.3期 実績	25.3期		対前期 増減	対2月予想 増減
		2月時点予想	実績		
売上高	671	1,110	1,115	443	5
営業利益	64	265	266	202	1
営業利益率	9.6%	23.9%	23.9%	14.3%	0.0%

営業利益の変動要因分析

(対前期増減)



(対2月予想増減)



▽対前期実績

当期はデータセンター向け高容量HDDの需要が回復し、HDD用サスペンションの売上数量は前年同期比で大きく伸長。円安による利益の押し上げも加わり増収増益となった。

▽対2月時点予想

HDD用サスペンションの売上数量は若干下振れしたものの、単価の高い試作売上の増加や円安効果などの影響により増収増益を確保した。

2025年3月期より、精密部品事業から分離したDDS事業となります。

前年度は、ハードディスク関連市場の需要低迷から、2025年3月期は、需要が大きく回復しました。

また、円安の影響等もあり、大幅な増収増益となっております。

第3四半期予想比では、ほぼ予想値並みとなっております。

25.3期 連結決算

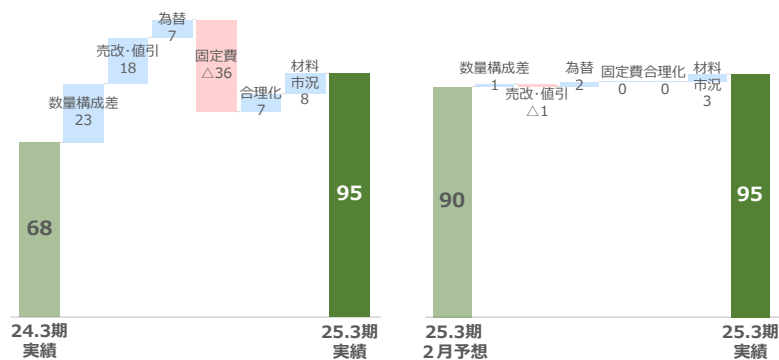
事業セグメント分析：産業機器ほか

	24.3期 実績	25.3期		対前期 増減	対2月予想 増減
		2月時点予想	実績		
売上高	1,099	1,150	1,151	52	1
営業利益	68	90	95	26	5
営業利益率	6.2%	7.8%	8.3%	2.1%	0.4%

営業利益の変動要因分析

(対前期増減)

(対2月予想増減)



▽対前期実績

金属基板事業は、既存品の需要低下と新規品の立上遅れにより数量減となったものの、半導体プロセス部品の数量は前年比で大きく回復。円安による利益の押し上げも寄与し、増収増益となった。

▽対2月時点予想

半導体プロセス部品は若干の数量減となったがマリンプロダクト事業等が挽回し、増収増益を確保した。

最後に、産業機器ほかとなります。

金属基板事業は、E V市場低迷の影響等により売上減となっております。

一方、半導体プロセス部品の大幅な市場回復により、増収増益となっております。

第3四半期予想では、予想値並みの実績となっております。

26.3期 業績予想

続いて、2026年3月期の業績予想となります。

26.3期 業績予想

(億円)

	25.3期 実績	26.3期			対前期	
		上期	下期	通期	増減	比率
売上高	8,016	3,910	4,090	8,000	△16	△0.2%
営業利益	521	172	298	470	△51	△9.9%
営業利益率	6.5%	4.4%	7.3%	5.9%	△0.6%	-
経常利益	579	200	330	530	△49	△8.6%
経常利益率	7.2%	5.1%	8.1%	6.6%	△0.6%	-
親会社株主に帰属する当期純利益	481	150	250	400	△81	△17.0%
特別損益	16	-	-	-	△16	-
1株当たり当期純利益（EPS）（単位：円）	224.73	-	-	196.15	△28.58	-
自己資本利益率（ROE）	11.9%	-	-	9.6%	△2.3%	-
平均為替レート	US \$	-	-	145.0	△7.5	-
タイバーツ	4.3	-	-	4.4	0.1	-
期末為替レート	US \$	-	-	145.0	△4.5	-
	（当期）	-	-	149.5	△1.9	-
	（前期）	-	-	-	-	-
タイバーツ	（当期）	-	-	4.4	△0.2	-
	（前期）	-	-	4.6	0.5	-

16

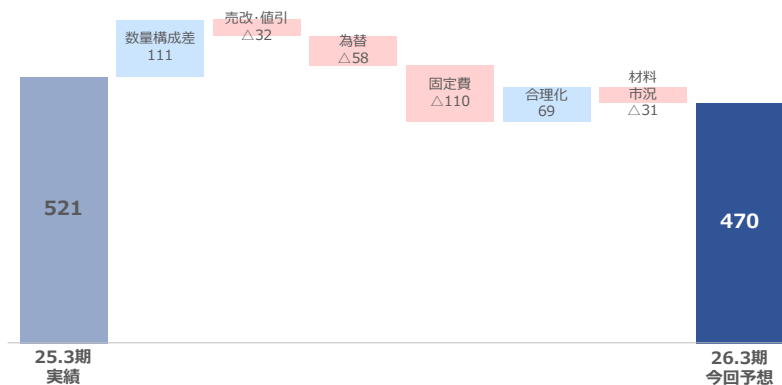
2026年3月期の通期予想は、売上高8,000億円、営業利益470億円、経常利益530億円、親会社株主に帰属する当期純利益は400億円としております。

為替レートは、非常に不透明な部分がございますが、米ドルは145円、タイバーツは4円40銭を想定しております。

営業利益の変動要因分析

	25.3期 実績	26.3期 予想			対前期 増減
		上期	下期	通期	
売上高	8,016	3,910	4,090	8,000	△16
営業利益	521	172	298	470	△51
営業利益率	6.5%	4.4%	7.3%	5.9%	△0.6%

営業利益の変動要因分析



▽対前期実績

自動車関連市場は概ね横ばいで推移するものの、合理化等による原価低減活動で収益挽回を図る。

他方のHDD関連部品や半導体プロセス部品などの需要は引き続き堅調に推移する見込みだが、円高による利益の押し下げや、人件費を含めた将来投資による固定費増の影響により、増収減益を想定。

なお 米国関税政策による影響は 先行きが不透明であることから未織込み。

営業利益の変動要因について、ご説明致します。

自動車関連市場では、生産台数の横ばいが予想されますが、HDD関連部品、半導体プロセス部品は、引き続き堅調に推移する見通しです。

一方、円高や人件費の高騰、DX等将来に向けた投資等により、固定費が増加しており、増収減益を見込んでおります。

また、米国の関税政策の影響につきましては、先行きが非常に不透明である事等から、26年3月期の業績予想には一切織り込んでおりません。

直接的な影響が生じた場合は、グループ全体での合理化等により、影響を最小限とするべく進めていきます。

社内で吸収しきれない部分につきましては、お客様と相談し、影響が出ないように進めて参ります。

26.3期 業績予想

事業セグメント別売上高・営業利益の予想



		(億円)					
		25.3期 実績	26.3期 予想		通期	対前期	
			上期	下期		増減	比率
■懸架ばね	売上高	1,691	790	785	1,575	△116	△6.9%
	営業利益	4	△3	21	18	13	287.5%
	営業利益率	0.3%	△0.4%	2.7%	1.1%	0.9%	-
■シート	売上高	3,039	1,435	1,500	2,935	△104	△3.4%
	営業利益	112	28	67	95	△17	△15.4%
	営業利益率	3.7%	2.0%	4.5%	3.2%	△0.5%	-
■精密部品	売上高	1,019	510	530	1,040	20	2.0%
	営業利益	42	9	28	37	△5	△13.7%
	営業利益率	4.2%	1.8%	5.3%	3.6%	△0.6%	-
■DDS	売上高	1,115	585	615	1,200	84	7.6%
	営業利益	266	110	120	230	△36	△13.8%
	営業利益率	23.9%	18.8%	19.5%	19.2%	△4.8%	-
■産業機器ほか	売上高	1,151	590	660	1,250	98	8.5%
	営業利益	95	28	62	90	△5	△5.3%
	営業利益率	8.3%	4.7%	9.4%	7.2%	△1.1%	-
合計	売上高	8,016	3,910	4,090	8,000	△16	△0.2%
	営業利益	521	172	298	470	△51	△9.9%
	営業利益率	6.5%	4.4%	7.3%	5.9%	△0.6%	-

▽対前期実績

懸架ばねは 国内外とも数量減傾向だが
タイの需要回復や合理化により減収増益
の見通し。

シートは 積極的な合理化を進めるもの
の、SUBARUビジネスの数量減等により
減収減益の見通し。

精密部品は モーターコアやHDD関連
部品が引き続き堅調に推移するものの、
人件費を含めた将来投資による固定費増
等により増収減益を見込む。

DDSおよび産業機器ほかは HDD用サ
スペンションや半導体プロセス部品が好
調に推移する見通しだが、円高による利
益の押し下げや、人件費を含めた将来投
資による固定費増等により増収減益を想
定。

事業セグメント別の売上高・営業利益の概況となります。

懸架ばね事業は、タイの需要回復、合理化等により減収増益の見通しです。

シート事業は、積極的に合理化を進めておりますが、SUBARU様の
台数減影響により、減収減益を想定しております。

精密部品事業のモーターコア、DDS事業のHDD用サスペンションは、
それぞれ好調に推移する見通しです。

産業機器ほか事業の半導体プロセス部品の数量が、営業利益においては、
円高及び人件費を含めた将来投資による固定費増等により、増収減益を見込
んでおります。

地域セグメント別売上高・営業利益の予想

		(億円)					
		25.3期 実績	26.3期 予想			対前期	
			上期	下期	通期	増減	比率
●日本	売上高	4,574	2,233	2,447	4,680	105	2.3%
	営業利益	399	91	199	290	△109	△27.4%
	営業利益率	8.7%	4.1%	8.1%	6.2%	△2.5%	－
●アジア	売上高	2,053	1,049	1,061	2,110	56	2.8%
	営業利益	194	98	109	207	12	6.3%
	営業利益率	9.5%	9.3%	10.3%	9.8%	0.3%	－
●米欧ほか	売上高	1,389	628	582	1,210	△179	△12.9%
	営業利益	△72	△17	△10	△27	45	－
	営業利益率	△5.2%	△2.7%	△1.7%	△2.2%	3.0%	－
合計	売上高	8,016	3,910	4,090	8,000	△16	△0.2%
	営業利益	521	172	298	470	△51	△9.9%
	営業利益率	6.5%	4.4%	7.3%	5.9%	△0.6%	－

▽対前期実績

●日本

HDD関連部品や半導体プロセス部品など非自動車分野は好調に推移する見通しだが、懸架ばね および シートのSUBARUビジネスの数量減、円高による利益の押し下げ、人件費を含む将来投資の増加などにより、増収減益となる見通し。

●アジア

HDD関連事業は引き続き好調に推移するものの、為替による押し下げ等もあり利益面では前年度をやや下回る。

他方の自動車関連分野は、中国事業が減収の見通しだが、タイの収益改善等により増収増益を見込む。

●米欧ほか

数量減や換算影響により減収見込みではあるものの、米国およびメキシコにおいて生産性改善・原価低減努力を積極的に織り込み、前期比で赤字幅の6割削減を目指す。

地域別セグメントの売上高・営業利益予想となります。

日本は、HDD関連部品及び半導体プロセス部品が好調に推移する一方、懸架ばね事業、シート事業は、数量減及び円高、固定費増等により、増収減益を見込んでおります。

アジア地域については、ハードディスク関連部品は好調に推移する一方、為替影響により、利益は前年度を下回る予想としております。

自動車関連事業は、タイでのピックアップ市場の回復、原価低減により、増収増益を見込んでおります。

米欧ほか地域については、自動車関連の数量減に加えて、為替影響により、減収予想としております。一方で、北米・メキシコにおける生産性の改善、原価低減努力を織り込み、対前期比では、大幅な改善を見込んでおります。

26.3期 業績予想

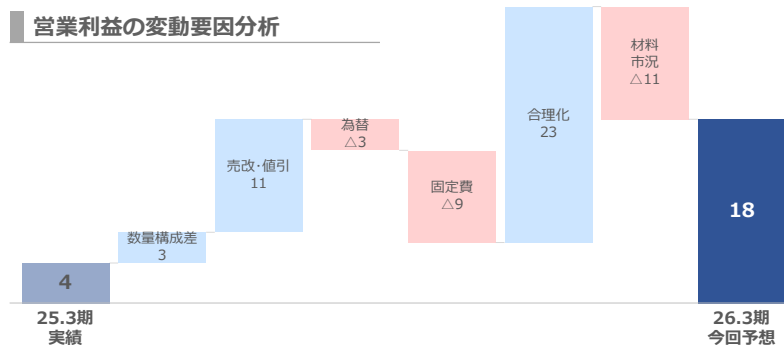
事業セグメント分析：懸架ばね

	25.3期 実績	26.3期 予想			対前期 増減
		上期	下期	通期	
売上高	1,691	790	785	1,575	△116
営業利益	4	△3	21	18	13
営業利益率	0.3%	△0.4%	2.7%	1.1%	0.9%

▽対前期実績

全体としては数量減傾向も、タイにおけるピックアップトラックの需要回復や海外拠点を中心とした合理化推進により減収ながらも増益確保の見込み。

営業利益の変動要因分析



それでは、セグメント別の状況を詳しくみて参ります。

まず、懸架ばね事業となります。懸架ばね事業は、減収増益予想としております。

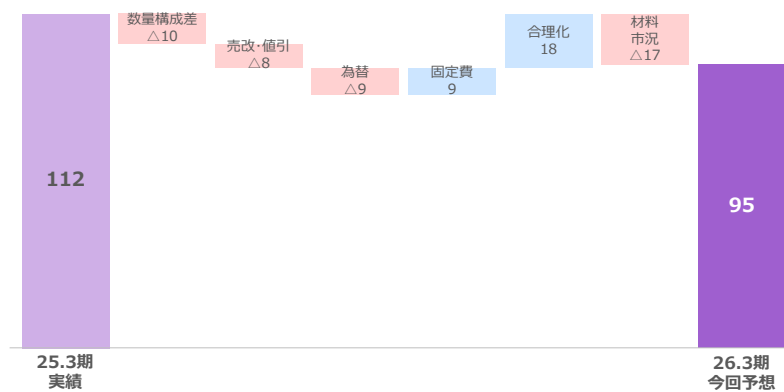
全体的に数量減が見込まれますが、タイの需要回復や合理化による改善を見込んでおります。

26.3期 業績予想

事業セグメント分析：シート

	25.3期 実績	26.3期 予想			対前期 増減
		上期	下期	通期	
売上高	3,039	1,435	1,500	2,935	△104
営業利益	112	28	67	95	△17
営業利益率	3.7%	2.0%	4.5%	3.2%	△0.5%

営業利益の変動要因分析



▽対前期実績

前年同様に厳しい台数環境が継続。
日本・タイ・北米を中心とした積極的な
合理化を進めるものの、主力のSUBARU
ビジネスの数量減や市況回収の変動等により減収減益となる見通し。

シート事業については、減収減益の予想となっております。

主力のSUBARU様向けの数量減による影響が大きく、また材料費高騰の影響もあり、減収減益の見込みとなっております。

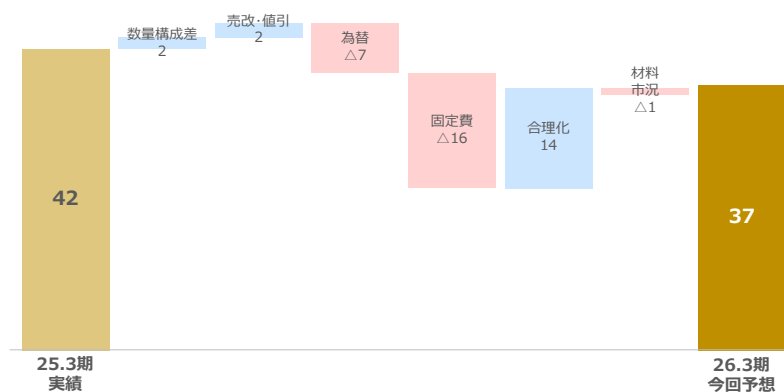
26.3期 業績予想

事業セグメント分析：精密部品

NHKニッパツ
NHK SPRING CO.,LTD.

	25.3期 実績	26.3期 予想			対前期 増減
		上期	下期	予想	
売上高	1,019	510	530	1,040	20
営業利益	42	9	28	37	△5
営業利益率	4.2%	1.8%	5.3%	3.6%	△0.6%

営業利益の変動要因分析



▽対前期実績

日本のモーターコアと タイのHDD用機構部品が引き続き堅調に推移するものの人件費を含めた将来投資等による固定費負担の増加や為替影響等により増収減益となる見通し。

精密部品事業については、モーターコアとHDD関連部品向けの数量が、2025年3月期に続いて、好調に推移する見込みです。

人件費を含む将来投資による固定費増等により、増収減益の予想としております。

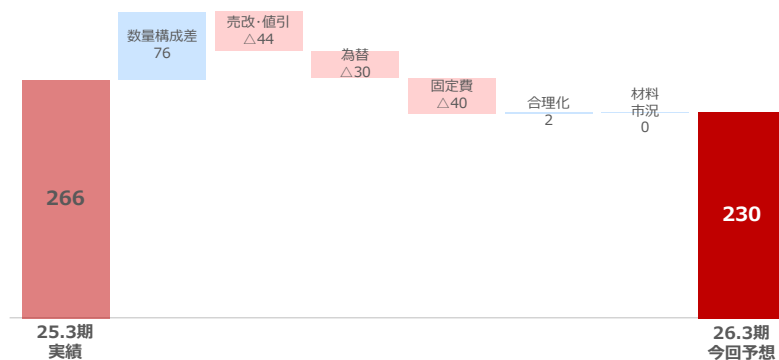
26.3期 業績予想

事業セグメント分析 : DDS (Disk Drive Suspension)

NHKニッパツ
NHK SPRING CO.,LTD.

	25.3期 実績	26.3期 予想			対前期 増減
		上期	下期	予想	
売上高	1,115	585	615	1,200	84
営業利益	266	110	120	230	△36
営業利益率	23.9%	18.8%	19.5%	19.2%	△4.8%

営業利益の変動要因分析



▽対前期実績

HDD用サスペンションの売上数量は、前期に引き続き好調に推移する見通しだが、円高による利益の押し下げや、人件費を含めた将来投資による固定費増等が重なり、増収減益となる見込み。

DDS 事業については、数量は引き続き好調に推移する見込みですが、為替影響や固定費増等により、増収減益としております。

26.3期 業績予想

事業セグメント分析：産業機器ほか

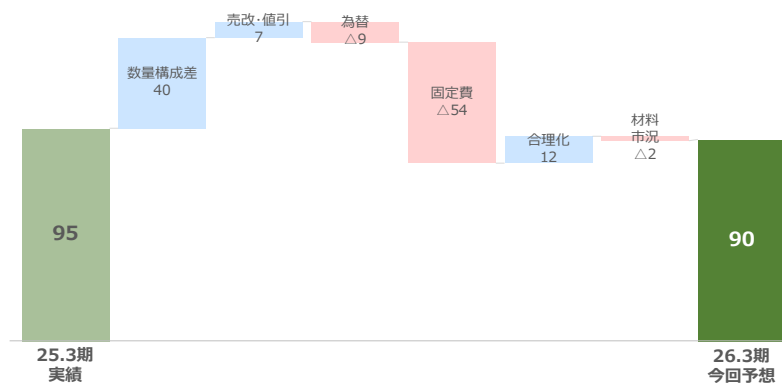
NHKニッパツ
NHK SPRING CO.,LTD.

	25.3期 実績	26.3期 予想			対前期 増減
		上期	下期	予想	
売上高	1,151	590	660	1,250	98
営業利益	95	28	62	90	△5
営業利益率	8.3%	4.7%	9.4%	7.2%	△1.1%

▽対前期実績

半導体プロセス部品は引き続き好調に推移するものの、生産体制拡大や成長事業への先行投資による固定費負担の増加、更に円高による利益の押し下げ等も影響し、増収減益となる見込み。

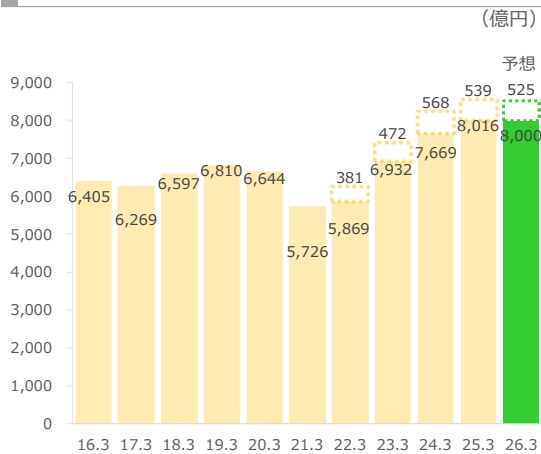
営業利益の変動要因分析



産業機器ほか事業については、半導体プロセス部品が引き続き好調を維持する一方、生産体制の拡大、成長事業への先行投資等による固定増により、増収減益を見込んでおります。

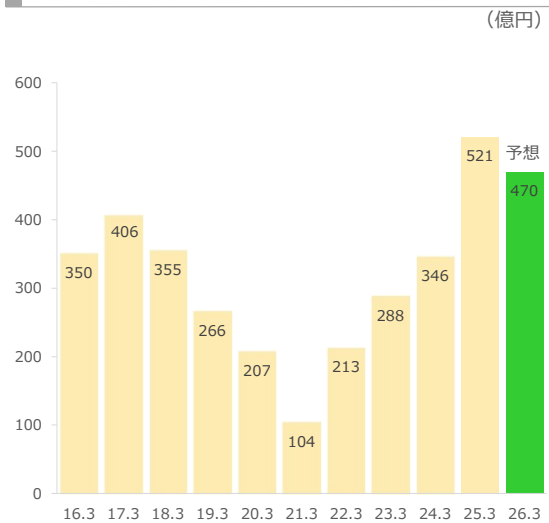
業績推移

売上高



『収益認識に関する会計基準（改正企業会計基準第29号）』の適用により、従来は売上高として計上していた顧客からの有償支給額を、2022年3月期より売上原価と相殺表示しております。

営業利益

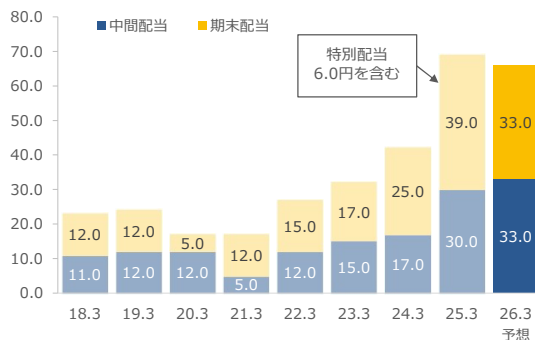


こちらは、2016年度からの業績推移を示したグラフとなります。

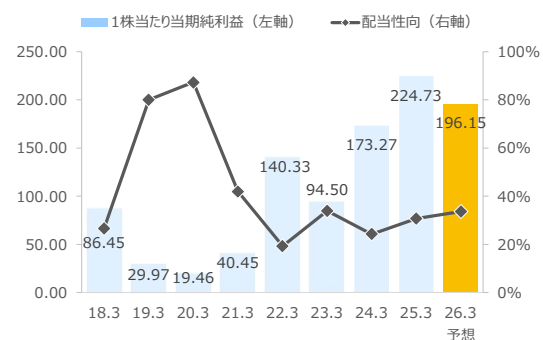
ご覧の通り、2026年3月期予想は、2025年3月期実績を僅かながら下回る見込みとなっております。

配当

1 株当たり配当額



1 株当たり当期純利益



	第2四半期末	期末	合計	配当性向
25.3期 実績	30.0円	39.0円	69.0円	30.7%
26.3期 予想	33.0円	33.0円	66.0円	33.6%

続いて、配当となります。

2025年3月期の期末配当ですが、現時点では特別配当6円を含め、期末配当を39円とさせていただく予定です。

2026年3月期の配当予想ですが、2025年3月期の期末配当33円と同額とし、中間、期末ともに33円、年間で66円の配当予想としております。

2025年3月期の決算概要、及び2026年3月期業績予想の概要についてのご説明は以上となります。

2026中期経営計画 進捗

代表取締役社長
COO

上村 和久

2026中計の進捗について、ご説明致します。

2026中計グループ基本方針

〳サステナビリティ活動のさらなる推進〳 〳人を大切にし、社会へ貢献する〳	人を大切にする	■ステークホルダーとの信頼関係の一層の強化 ■安全・安心な会社、働きがいのある働きやすい職場づくり ■多様な人材の成長支援と活躍推進
	社会へ貢献する	■なくてはならないキーパーツの提供 ■地球環境問題への取組の加速 ■地域社会への貢献
	ちゃんと買ってちゃんと造ってちゃんと売る	■『品質第一』のものづくり力の強化 ■DX推進による競争力強化 ■取引適正化推進とCSR調達強化

こちらは、26中計、ニッパツグループ基本方針であります。

「人を大切にする」「社会へ貢献する」「ちゃんと買ってちゃんと造ってちゃんと売る」の三つを柱に掲げ、サステナビリティ活動のさらなる推進、人を大切にし、社会へ貢献することを推進して参ります。

26中計進捗 経営目標（売上損益）

(億円)

	26.3月 (25年度) 予想	27.3月 (26年度) 中期計画	26中計-25予想	
			増減	率
売上高	8,000	8,500	500	6.3%
営業利益	470	520	50	10.6%
営業利益率	5.9%	6.1%	0.2%	
経常利益	530	570	40	7.5%
経常利益率	6.6%	6.7%	0.1%	
親会社株主に帰属する 当期純利益	400	430	30	7.5%

自動車関連市場：グローバル生産台数は前期並みの見通し

情報通信関連市場：HDD（Hard Disk Drive）グローバル生産台数、HDDサスペンション総需要共に増加

29

まず、売上損益の進捗と2026年3月期の市場動向について、ご説明致します。

2026年3月期は売上高8,000億円、営業利益470億円、営業利益率5.9%、経常利益530億円、経常利益率6.6%、当期純利益400億円の予想です。

自動車関連市場は、グローバル、国内ともに、生産台数は前期並みとなる見通しです。

情報通信関連市場は、HDDのグローバル生産台数、HDD用サスペンションの総需要とも、対前年同期比で増加する見通しです。

26中計進捗 セグメント別 売上高・営業利益

(億円)						
		26.3期	27.3期	26計画-25予想		26中期達成に向けた施策
		(25年度)	(26年度)	増減額	増減率	
			予想			
■懸架ばね	売上高	1,575	1,738	163	90.6%	・北米拠点の黒字化の達成（売価改善の推進、生産性の改善） ・競争力向上に向けた新技術・製品開発と市場投入
	営業利益	18	52	34	34.6%	
	営業利益率	1.1%	3.0%	1.8%		
■シート	売上高	2,935	3,071	136	95.6%	・各自動車メーカーとの更なる関係強化による後継機種の確実な受注 ・電動化、自動運転、環境課題に対応したシート、関連デバイスの開発
	営業利益	95	120	25	79.2%	
	営業利益率	3.2%	3.9%	0.7%		
■精密部品	売上高	1,040	1,050	10	99.0%	・モーターコア事業の拡大（グローバル生産体制の拡充） ・電動/電制化製品向けの製品開発
	営業利益	37	43	6	86.0%	
	営業利益率	3.6%	4.1%	0.5%		
■DDS	売上高	1,200	1,171	△29	102.5%	・高容量HDD向けサスペンションの市場シェア拡大 ・マイクロコンタクタの市場シェア拡大
	営業利益	230	190	△40	121.1%	
	営業利益率	19.2%	16.2%	△3.0%		
■産業機器ほか	売上高	1,250	1,470	220	85.0%	・半導体プロセス部品の事業規模拡大（宮田工場の生産能力増強） ・電動車向け金属基板の受注活動
	営業利益	90	115	25	78.3%	
	営業利益率	7.2%	7.8%	0.6%		
合計	売上高	8,000	8,500	500	94.1%	
	営業利益	470	520	50	90.4%	
	営業利益率	5.9%	6.1%	0.2%		

30

続いて、製品セグメント別の売上高と営業利益となります。

懸架ばね事業については、北米拠点の黒字化達成に向け、収益改善活動に注力して参ります。

シート事業については、各自動車メーカー様とのさらなる関係強化により、後継機種の実受注を進めて参ります。

精密部品事業については、モーターコア事業の拡大、電動車向けの製品開発と受注活動を積極的に進めて参ります。

DDS事業については、高容量HDD用サスペンションのシェア拡大に注力しております。

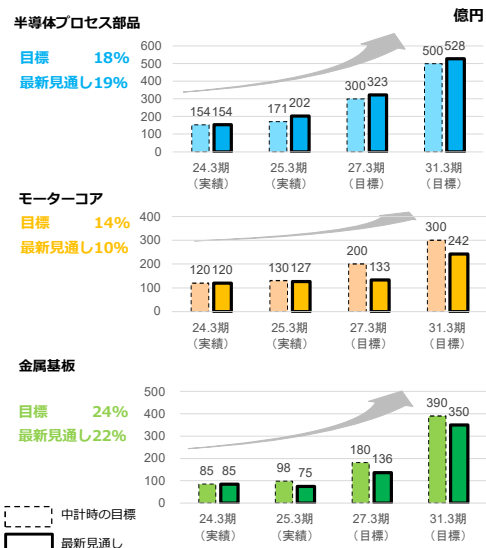
産業機器ほかについては、半導体プロセス部品の事業拡大、電動車向け金属基板の受注活動に積極的に取り組んでおります。

26中計進捗 財務指標

□ : 26中計から新たに追加した経営管理指標

		24.3期 (実績)	25.3期 (実績)	26.3期 (予想)	26中計 (目標)	
売上高・損益	売上高	7,669億円	8,016億円	8,000億円	8,500億円	
	営業利益 (営業利益率)	346億円 (4.5%)	521億円 (6.5%)	470億円 (5.8%)	520億円 (6.1%)	
	経常利益 (経常利益率)	478億円 (6.2%)	579億円 (7.2%)	530億円 (6.6%)	570億円 (6.7%)	
	当期純利益 (当期純利益率)	391億円 (5.1%)	481億円 (6.0%)	400億円 (5.0%)	430億円 (5.1%)	
財務指標	投資効率	ROE	10.4%	11.9%	9.6%	10%以上
		ROIC	6.1%	8.3%	7.1%	7%以上
	株主還元	配当性向	24.2%	30.7%	33.6%	30%以上
	健全性	自己資本比率	58.7%	58.5%	59.3%	50%以上
	政策保有株式	純資産比率	20.4%	14.7%	13.1%	20%未満

売上高年平均成長率(CAGR) 期間: 24.3期~31.3期



31

続いて、財務指標の進捗について、ご説明致します。

ROEについては、2025年3月期の実績が11.9%と、26中計目標10%以上を上回る結果となりました。

2026年3月期の予想は9.6%を見込んでおります。

引き続きROE10%以上を目指して、全力で取り組んでまいります。

26中計から新たに追加した経営管理指標、「ROIC、自己資本比率、政策保有株式の純資産比率」については、中計目標を上回る推移となっております。

成長3事業のCAGRについては、半導体プロセス部品が目標を上回る見通しです。モーターコア、金属基板は、車の電動化が鈍化しておりますが、将来の需要拡大に向けて開発・生産への備えを着実に進めて参ります。

26中計進捗 資本コストとキャッシュアロケーション

ROICとWACCの比較

	24.3期 (実績)	25.3期 (実績)	26中計 (目標)
ROIC (全社)	6.1%	8.3%	7.0% 以上
WACC ¹ (全社)	6.3%	6.1%	

ご参考/事業セグメント別ROIC²

懸架 ばね	1.1%	0.3%
シート	20.2%	11.2%
精密 部品	0.6%	3.2%
DDS	10.9%	36.8%
産業機 器ほか	6.2%	6.9%

キャッシュイン

26中計目標 3年間	24実績+25予想 2年間合計	2年間 進捗率
営業CF ₃ 2,700億円	営業CF 1,920億円	71%
政策保有株式売却 150億円	政策保有株式売却 60億円	40%
金融機関新規借入 250億円	金融機関 借入等 250億円	100%

※1 WACCの算定にあたり、リスクフリーレートは新発10年国債利回り、エクイティ・リスク・プレミアムは1974年以降の2年週次のエクイティリスクプレミアム、βは当社のヒストリカルベータ60ヶ月を使用しております。
2 事業セグメント別ROICは管理の効率性の観点から、固定資産と棚卸資産を集計対象とし簡易的に算出しております。
3 営業CF1,920億円は、本来の営業CF1,142億円にキャッシュアウトの投資に含まれる費用778億円(人的資本投資265億円、DX投資30億円、CN投資10億円、研究開発投資473億円)を加算しております。

32

資本コストとキャッシュアロケーションとなります。

ROICとWACCの比較では2025年3月期のROIC実績が8.3%と、WACC実績6.1%を上回りました。DDS事業が全体を引っ張っており、26中計目標の7%以上を達成しております。

キャッシュインについては、営業キャッシュフローは計画通りに進捗しております。

政策保有株式については、純資産比率20%未満を維持すべく、進めて参ります。

26中計進捗 資本コストとキャッシュアロケーション

キャッシュアウト：中長期的な企業価値の向上に向けた成長投資に優先的に資本を配分

26中計目標 3年間		24実績+25予想 2年間合計		進捗率	取り組み
投資 2,500億円	人的資本投資 500億円	投資 1,720億円	人的資本投資 320億円	64%	■処遇改善、職場環境改善による従業員エンゲージメントの向上
	DX投資 200億円		DX投資 110億円	55%	■基幹システム、AI技術への投資による業務改革推進
	CN投資 100億円		CN投資 50億円	50%	■生産設備の電化、再生可能エネルギー購入によるCN活動の推進
	研究開発投資 700億円		研究開発投資 520億円	74%	■新商品開発、上市への活動加速、既存製品の価値向上施策の推進
	事業投資 1,000億円		事業投資 720億円	72%	■継続的な技術革新による「品質第一」のものづくり力の強化
株主還元 600億円	配当 400億円 自己株式取得 200億円	株主還元 510億円	配当 270億円 自己株式取得 240億円	67%	■連結業績および配当性向などを総合的に勘案した安定的配当
				120%	■自己株式取得および消却による株主還元と効率性と安全性に鑑みた資本構成の実現

33

続いて、キャッシュアウトとなります。

人的資本投資、DX投資、CN投資、研究開発投資、事業投資等、当社は長期的な企業価値の向上に向けた成長投資に積極的に資本を配分しております。

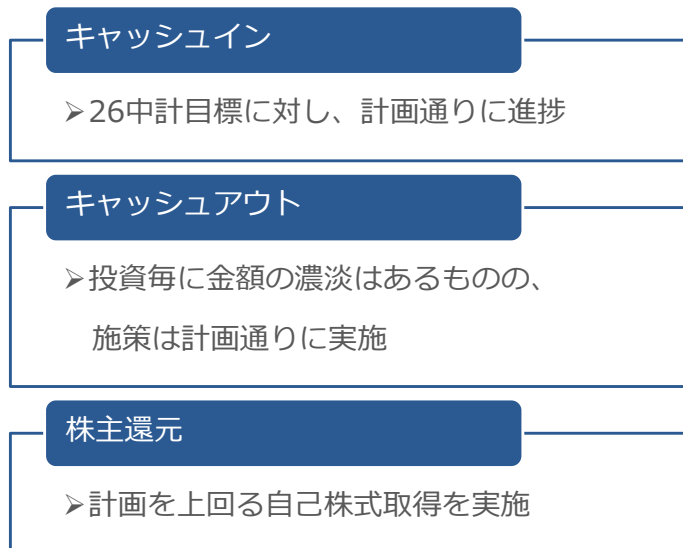
各項目共、26中計に対し、順調な進捗を示しております。

26中計進捗 キャッシュアロケーション（総括）

26中計目標



総括



34

以上ご説明しましたキャッシュアロケーションを総括すると、キャッシュイン、キャッシュアウト、株主還元ともに、ほぼ計画通り推移しております。

次のスライドでは、26中計の三つの方針に関連した、人的資本投資、DX投資、CN投資について、ご説明致します。

26中計進捗 人的資本投資

24年度実施内容

- 働きやすい職場
 - －重筋作業をはじめとする現場環境の改善
- 人事制度改革
 - －人事制度、教育体系の見直し
- 従業員エンゲージメントの向上
 - －ライセンス手当制度の拡充
 - －「プラチナくるみん」認定取得（子育て支援の充実化）
- 健康推進への取り組み
 - －「こころの健康相談窓口」「男女特有の疾病相談窓口」を新設



まず、人的資本投資について、ご説明致します。

2024年度の実施内容はご覧の通りとなります。

働きやすい職場作りでは、重筋作業の撲滅を始めとする職場環境の改善に取り組んでおります。

そのほか、人事制度や教育体系の見直し、ライセンス手当の拡充、健康推進を目的とした窓口等の設置を行っております。

また、当社のこれまでの子育て支援への取り組みを評価いただき、「プラチナくるみんの認定」を取得致しました。

引き続き、人の価値の最大化を目指して、各取り組みを着実に進めて参ります。

26中計進捗 DX投資

24年度実施内容

- 業務改革の推進
 - －基幹システムの更改、次世代ネットワークの構築
- AI技術への投資
 - －AIを活用したハードディスクドライブ用サスペンションの外観検査工程の自動化の検証

続きまして、DX投資について、ご説明致します。

2024年度実施内容は、ご覧の通りとなります。

当中計では、次世代ネットワークの構築、再構築を進めると共に、DXによる業務改革効率化を推進しております。

例えば、HDD用サスペンションの外観検査工程では、AI活動による自動化の検証を進めております。

今後、データの蓄積を含め、省人化、生産効率の向上、事務効率化を目指して参ります。

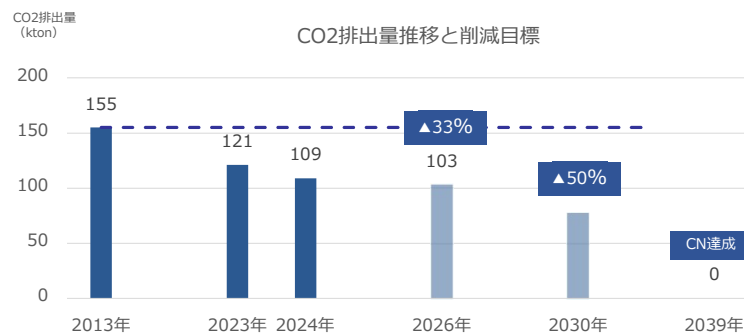
26中計進捗 カーボンニュートラル投資

24年度実施内容

➤ CO2排出量の削減

中計目標 : 排出量 103千ton-CO2 (2013年度比33%減)

24年度実績 : 排出量 109千ton-CO2 (2013年度比30%減)



37

最後に、カーボンニュートラルへの取り組みについて、ご説明致します。

当社は、創立100周年を迎える2039年に、CN達成を目指して取り組んでおります。

26中計目標と2024年度実績は、ご覧の内容となります。

グラフの通り、2039年、CN達成に向け、計画通り排出量を削減しております。

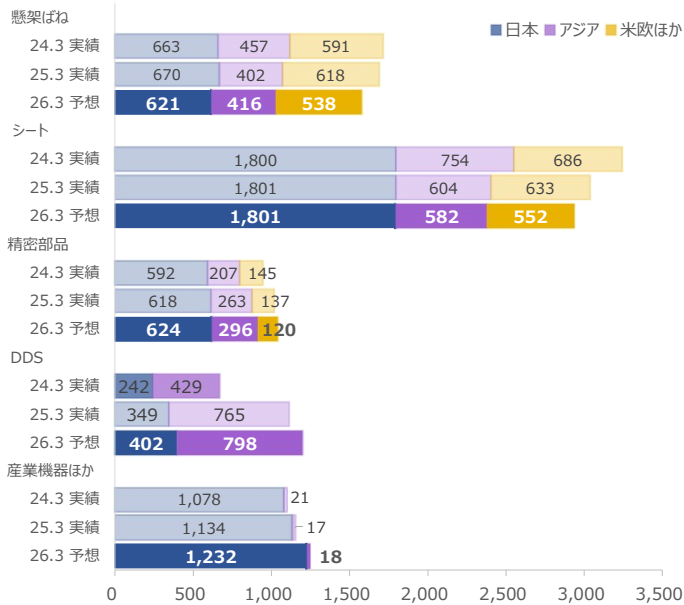
2039年のCN達成を目指し、取り組みを着実に進めて参ります。

世の中、関税政策等、先行きが不透明な状況ではございますが、ご説明致しました取り組みを着実に実行し、26中計を達成すべく、グループ一丸となって取り組んで参ります。

補足資料

補足資料

売上高の分解情報（通期）



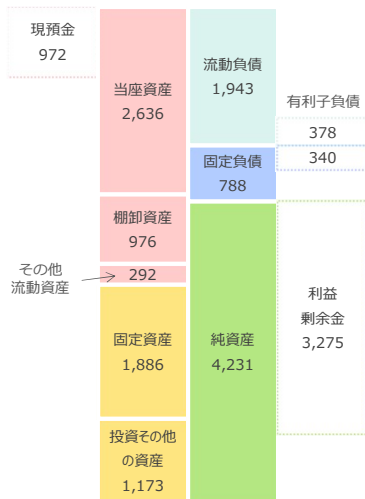
		(億円)			
		日本	アジア	米欧ほか	合計
懸架ばね	24.3 実績	663	457	591	1,711
	25.3 実績	670	402	618	1,691
	26.3 予想	621	416	538	1,575
シート	24.3 実績	1,800	754	686	3,241
	25.3 実績	1,801	604	633	3,039
	26.3 予想	1,801	582	552	2,935
精密部品	24.3 実績	592	207	145	945
	25.3 実績	618	263	137	1,019
	26.3 予想	624	296	120	1,040
DDS	24.3 実績	242	429	-	671
	25.3 実績	349	765	-	1,115
	26.3 予想	402	798	-	1,200
産業機器ほか	24.3 実績	1,078	21	-	1,099
	25.3 実績	1,134	17	-	1,151
	26.3 予想	1,232	18	-	1,250
合計	24.3 実績	4,377	1,869	1,423	7,669
	25.3 実績	4,574	2,053	1,389	8,016
	26.3 予想	4,680	2,110	1,210	8,000

	21.3期 実績	22.3期 実績	23.3期 実績	24.3期 実績	25.3期 実績	(億円) 増減額
総資産	5,607	5,880	6,060	6,902	6,963	61
自己資本	2,839	3,226	3,492	4,050	4,076	26
自己資本比率	50.6%	54.9%	57.6%	58.7%	58.5%	△0.1%
現預金	793	921	729	1,032	972	△60
有利子負債	700	508	505	474	718	244
ネットキャッシュ	93	413	224	558	254	△304

バランス・シートの状況

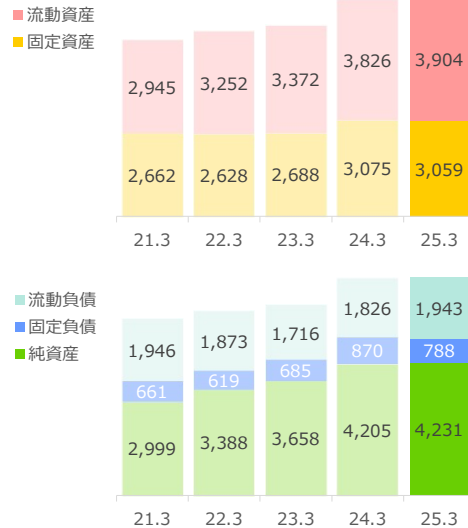
25.3期 実績

(億円)



バランス・シート推移

(億円)



▼資産

時価評価により投資有価証券が減少したが、為替レートの変動により、在外子会社の資産の円換算額が押し上げられたほか、設備投資額等が増加したことにより増加。

▼負債

投資有価証券の時価の下落による繰延税金負債の減少や、前期に対して課税所得が減少したことによる未払法人税等の減少があるも、有利子負債が増加したことにより増加。

▼純資産

自己株式の取得等により減少したものの、親会社株主に帰属する中間純利益による利益剰余金が増加したことにより増加。

補足資料

設備投資・減価償却費（事業セグメント別）

NHKニッパツ
NHK SPRING CO.,LTD.

（億円）

		24.3期 実績	25.3期 実績	26.3期 予想
設備投資	懸架ばね	58	63	105
	シート	49	64	53
	精密部品	107	79	110
	DDS	45	43	99
	産業機器ほか	82	126	123
	全社共有	27	25	50
	合計	370	402	540
	前期比	31.8%	8.8%	34.2%
減価償却費	懸架ばね	63	54	57
	シート	56	52	47
	精密部品	47	52	55
	DDS	63	64	68
	産業機器ほか	35	41	56
	全社共有	19	28	24
	合計	286	293	307
	前期比	△0.7%	2.3%	4.8%

補足資料

設備投資・減価償却費（地域セグメント別）

NHKニッパツ
NHK SPRING CO.,LTD.

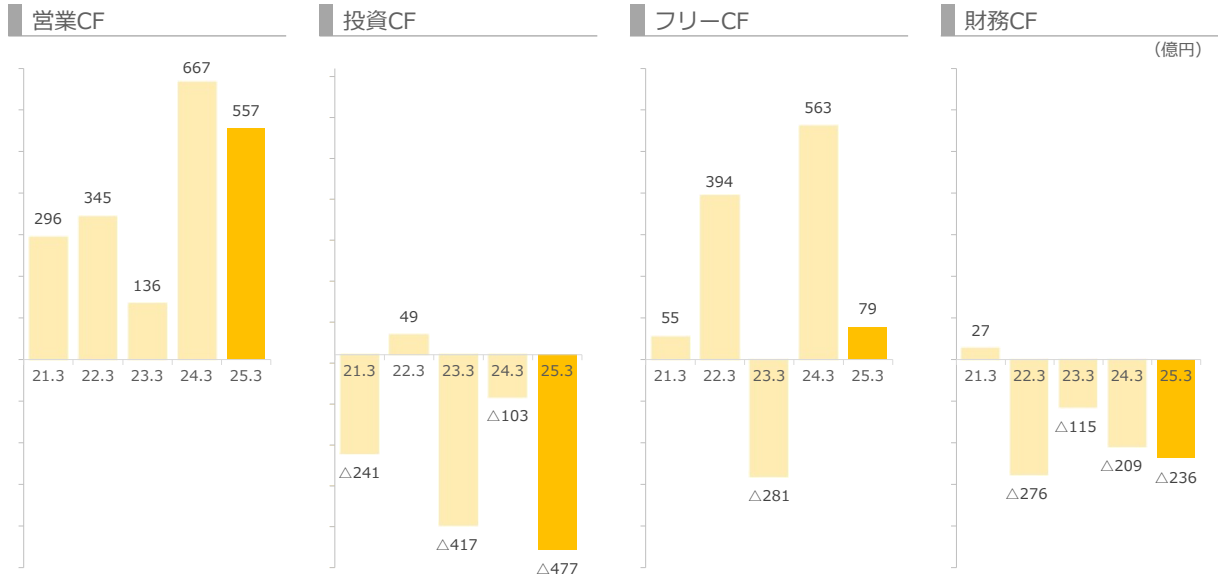
（億円）

		24.3期 実績	25.3期 実績	26.3期 予想
設備投資	日本	259	242	371
	アジア	75	88	110
	米欧ほか	34	71	59
	海外計	110	159	169
	合計	370	402	540
減価償却費	日本	146	165	185
	アジア	92	86	82
	米欧ほか	47	40	40
	海外計	139	127	122
	合計	286	293	307

補足資料

キャッシュ・フローの状況

NHKニッパツ
NHK SPRING CO.,LTD.



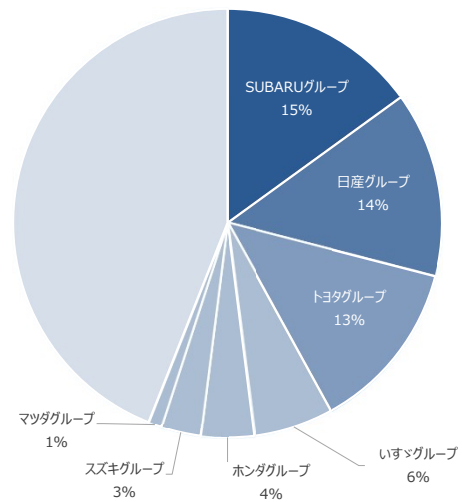
補足資料

総売上高に占める主要カーメーカーへの売上比率は？

NHKニッパツ
NHK SPRING CO.,LTD.

主要カーメーカー	24.3期 実績	25.3期 実績
SUBARUグループ	18%	15%
日産グループ	16%	14%
トヨタグループ	13%	13%
いすゞグループ	7%	6%
ホンダグループ	4%	4%
スズキグループ	4%	3%
マツダグループ	1%	1%
上位3社	47%	42%

(注) 比率は総売上高に対する割合



補足資料

四半期別売上推移（モーターコア、半導体プロセス部品、金属基板、レジヤー分野）

NHKニッパツ
NHK SPRING CO.,LTD.

		24.3期					25.3期					(億円) 26.3期
		1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	通期	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	通期	通期
精密部品	モーターコア	28	28	28	33	119	29	31	31	33	127	130
産業機器ほか	半導体プロセス部品	31	40	39	41	154	37	47	55	62	202	273
	金属基板	21	21	22	19	84	19	19	18	17	75	96
	レジヤー分野 (ゴルフプロダクト・マリンプロダクト等)	40	40	34	33	148	34	32	36	35	138	157

補足資料

主要海外拠点

NHKニッパツ
NHK SPRING CO.,LTD.



報告セグメント区分

2025年3月期より、報告セグメントの区分を従来の「懸架ばね」、「シート」、「精密部品」及び「産業機器ほか」から、「懸架ばね」、「シート」、「精密部品」、「DDS（Disk Drive Suspension）」及び「産業機器ほか」に変更しております。

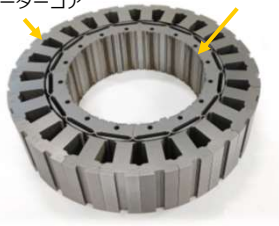
前連結会計年度以前

報告セグメント	主要製品
懸架ばね	コイルばね、板ばね、スタビライザ、アキュムレータ、トーションバー、スタビライザリンク、スタビリンカーほか
シート	自動車用シート、シート用機構部品、内装品ほか
精密部品	HDD用サスペンション、HDD用機構部品、線ばね、薄板ばね、モーターコア、液晶・半導体検査用プローブユニット、ファスナー（ねじ）、精密加工品ほか
産業機器ほか	半導体プロセス部品、セラミック製品、ばね機構品、配管支持装置、金属基板、駐車装置、セキュリティ製品、照明器具、ゴルフシャフト、船舶用電子リモコンほか

当連結会計年度以降

報告セグメント	主要製品
懸架ばね	コイルばね、板ばね、スタビライザ、アキュムレータ、トーションバー、スタビライザリンク、スタビリンカーほか
シート	自動車用シート、シート用機構部品、内装品ほか
精密部品	HDD用機構部品、線ばね、薄板ばね、モーターコア、ファスナー（ねじ）、精密加工品ほか
DDS	HDD用サスペンション、半導体検査用プローブユニットほか
産業機器ほか	半導体プロセス部品、セラミック製品、ばね機構品、配管支持装置、金属基板、駐車装置、セキュリティ製品、照明器具、ゴルフシャフト、船舶用電子リモコンほか

■モーターコア
ステーターコア ローターコア



当社で手がけるモーターコアは、EV、HV自動車の駆動用、または発電用モーターに使用される積層鉄心です。

0.25～0.35mmの電磁鋼板をプレスで打ち抜いて数百枚積層したもので、カシメや溶接により締結されております。

モーターコアは磁石が挿入されてモーターの回転部となるローターコアと、固定となる巻き線部のステーターコアから構成されます。

バッテリーからの電力がインバーターを介してモーターに供給され、コイルを巻き付けたステーターコアに発生する回転磁界の作用によりマグネットが組み込まれたローターコアが吸引・反発することでローターコアが高速回転します。

薄板の積層鉄心であるモーターコアは磁力線が通りやすく、より強い磁力を発生させる機能を持ちます。

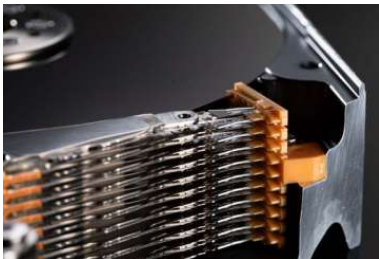
モーターコアは直径200mm前後、高さ150mm前後で、当社で手がける精密プレス加工品としては比較的大きいサイズとなりますが、必要とされる製品寸法精度がミクロンレベルであり、当社で長年かけて築き上げてきた自動車用部品の精密プレス加工技術や、HDD（ハードディスクドライブ）用部品の精密プレス加工技術を駆使した、大型の超高精度プレス加工品であります。

モーターコアの生産において肝となるプレス金型は、設計～製作～メンテナンスまで一貫して自社で行っており、国内だけでなく、グローバル展開しておりますメキシコ、中国の工場でも同じ品質のモーターコアの生産が可能です。

■HDDサスペンション



■HDDサスペンション搭載箇所



HDD用サスペンションは、HDDの中で、ディスク上のデータを読み書きする微小部品を支える特殊ばね製品です。

近年HDDはパソコン向けよりも、SNSや動画共有サイトなどのデータセンター向けが多くなっています。データセンターではギガサイズのファイルを大量に保存するため、大容量HDDが数十万個単位で並んでいて、そのHDD一つ一つに多くのHDD用サスペンションが搭載されています。左の写真ではHDD1台に20個、データセンター全体では膨大な数のHDD用サスペンションが使われています。

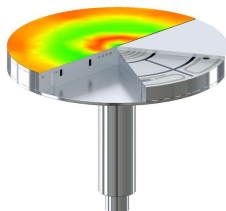
大容量HDD用サスペンションには、超小型アクチュエータが組み込まれており、データを読み書きする微小部品を微細に動かし、ディスク上のデータをより高密度で読み書きする事が出来ます。

この超小型アクチュエータを、製品中央部に組み込んだものをDSA、先端部に組み込んだものをCLAと呼んでいます。人で例えるならDSAは手首、CLAは指先が動くイメージです。またさらに高性能な製品としてDSAとCLAの両方を組み込んだ、現在主力のTSAを開発しました。繊細かつダイナミックな動きが可能で、データセンターで使用するHDDのさらなる大容量化に貢献します。

当社はCLAやTSAを世界に先駆け量産化、グローバルでトップシェアを有しております。

- *DSA = Dual Stage Actuatorの略
- *CLA = Co-Located Actuatorの略
- *TSA = Triple Stage Actuatorの略

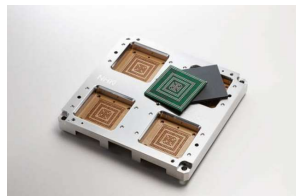
■成膜装置用マルチゾーン制御ステージヒータ



■エッチング装置用溶射付冷却板



■テストソケット



■コンタクトプローブ（マイクロコンタクタ®）



■プローブカード



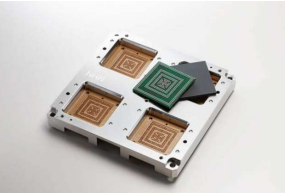
■コンタクトプローブ（マイクロコンタクタ®）



■プローブカード



■テストソケット



半導体テストとは、半導体製品に電気を流して正常に動作するかを検査することです。

半導体テスト器具は、半導体テストにおいて半導体とテスト装置をつなぐ役割を果たします。当社は、前工程（半導体ウエハー工程）の検査で使用するプローブカードと後工程（パッケージ工程※）の検査で使用するテストソケット、およびそれらに組み込むばね製品、コンタクトプローブ（マイクロコンタクタ®）を世界中の半導体メーカーやその関連企業に提供しています。

マイクロコンタクタ

半導体テストで用いられる微細ばねを使用した検査端子です。テスト装置から出力された電気信号は、マイクロコンタクタを介して半導体へと送られます。半導体の端子に合わせて、さまざまな先端形状の加工が必要であり、当社は設計から加工まで、自社工場内で一貫して行うことができます。また顧客の要望に応じた特殊形状の提案も可能です。

プローブカード

前工程で用いられる器具です。微細穴を開けた円盤状の板にマイクロコンタクタが数十本から数千本、多いものでは数万本組み込まれています。検査対象であるウエハー上には半導体の微細な端子が無数にあり、その一つ一つにマイクロコンタクタを正確に接触させて個々の半導体の電気的特性（良否）を検査します。この正確で均一な接触のため、導通性能や寸法精度の高いマイクロコンタクタを使用することが重要です。

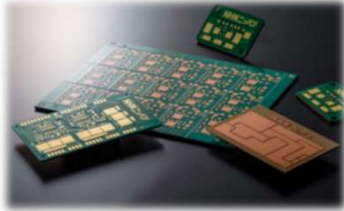
テストソケット

後工程で用いられる器具です。ソケットに挿入された個々の半導体パッケージは、マイクロコンタクタを介してテスト装置と接続され、電気特性や信頼性の試験が行われます。

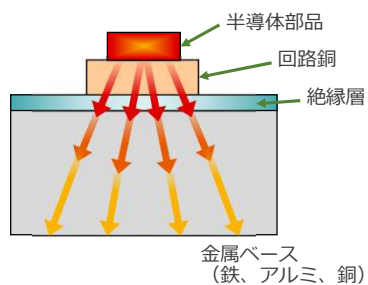
※パッケージ工程（半導体ウエハーから切り出されたICを回路の保護や外部の周辺回路と接続をやすくするため、プラスチックやセラミックで封入する工程）

製品紹介：金属基板 ~Integrated Metal Substrate~

(産業機器ほかセグメント)



■ IMSの断面構造図



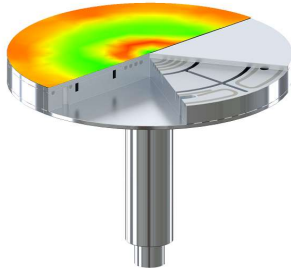
金属基板（以下IMS）は、ベースにアルミや銅などの金属板の上に絶縁層を介して回路を形成したもので、放熱性が優れているという特徴があります。その放熱性を活かして、車載用、産業用、民生用の分野で、IMS上に実装される半導体部品などが発生させる熱を効率よく逃がすという働きで使われております。

自動車分野では、電気自動車やハイブリッド車に搭載されるDC-DCコンバータや充電器モジュールなどへの採用が増えており、将来的には駆動用のインバータ回路への採用も目指しております。産業用途では、汎用インバータやエアコンのインバータ回路の他にも、再生可能エネルギーのパワーコンディショナー内部のパワーモジュールとして当社IMSが多く使用されております。

当社のIMSの特徴は、高放熱・高信頼な絶縁層の開発から製造、そしてIMSに仕立てるまでの一貫生産を行うことを強みとしております。

当社では、1980年代よりIMS開発を開始し、現在に至るまで次々と高放熱絶縁材を市場に送り出し業界をリードしております。

■成膜装置用マルチゾーン制御ステージヒータ



■エッチング装置用溶射付冷却板



半導体はシリコンの基板上に導線および絶縁物が微細かつ複雑なパターンで描かれ、回路が形成されています。ニッパツの半導体プロセス部品は半導体製造の主要工程である“成膜”および“エッチング”の工程で用いられています。

ニッパツのステージヒータはCVD、ALD*などの成膜工程で広く採用されています。主にアルミ合金、ステンレスなどの金属製で、長年培ってきた高度な接合技術により、複雑な内部構造の実現が可能です。

*CVD；Chemical Vapor Deposition（化学気相成長）の略

*ALD；Atomic Layer Deposition（原子層堆積）の略

ヒータエレメントの設計技術、シミュレーションのための解析技術を駆使し、複数のヒータエレメントや冷媒用チャンネル、断熱空間を配置し、均一な温度分布のみならず、部分的に数十度の範囲で差を生み出す、積極的な温度分布制御を可能にしています。

一方エッチング装置向けにおいては、冷却板と呼ばれる、プロセス中のシリコンウエハが載荷される、重要なステージ部品を製造しています。多くはアルミ合金で造られており、ヒータ同様高度接合技術を核に、材料調達から精密加工、セラミクス溶射施工までの一貫生産を強みとしています。

近年では、チャンバ下部でウエハを支持するヒータ、冷却板に加え、チャンバ上部に設置され、プロセスに必要なガスを供給するための部品であるシャワーヘッドの開発にも注力しており、売上を伸ばしております。

NHKニッパツ

- 本資料に記載している日本発条㈱の予想、計画は、将来の実績等に関する見通しであり、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績は、経済情勢、市場動向、為替の動向等、重要な要素の変動により、見通しとは異なる結果となり得ることもご承知下さい。
- 本資料に掲載されている事項は情報提供を目的とするものであり、投資勧誘を目的としているものではありません。
- この資料の著作権は日本発条㈱に帰属しております。
- 無断転載・複製することを禁じます。